

IBM Cognos Express Data Advisor
バージョン 10.1.0

ユーザー・ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Cognos Express バージョン 10.1.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。この資料のより新しいバージョンを確認するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) をご覧ください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Express Data Advisor
Version 10.1.0
User Guide

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.5

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2007, 2012.

目次

はじめに	v
第 1 章 システム概要	1
システムの導入	1
IBM Cognos Express Data Advisor のシステム要件	2
第 2 章 ご利用の手引き	3
IBM Cognos Express Data Advisor を使用する	3
ODBC データ・ソースに Express Data Advisor クライアント・システムを構成する	3
Express Data Advisor を起動する	4
Express Data Advisor のフロー・プロセス	4
第 3 章 IBM Cognos Express Data Advisor を使用する	5
IBM Cognos Express Data Advisor を設定する	5
Data Advisor を構成する	5
接続を設定する	6
言語を変更する	6
「アドバイザー」ウィンドウを表示する	6
モデル定義のデフォルトの場所を設定する	6
IBM Cognos Express Data Advisor のユーザー・インターフェース	7
ツールバー	8
ウィンドウ間のやりとり	8
ワークフロー	9
マルチディメンション・ベースのモデル定義	9
リレーショナル・モデル定義	10
特定の ODBC データ・ソースのモデル定義の作成	12
モデル定義を保存する	13
モデル定義を開く	13
モデル定義を使用する	13
データを選択する	14
フィールド間の関係を作成する	14
ディメンション	17
テーブルとディメンションをプレビューする	21
データを分析する	21
付録. Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する	23
クライアント・ベース法の設定	23
サーバー・ベース法の設定	24
サーバーの設定	24
クライアントの設定	25
特記事項	27
用語集	31
ア	31
カ	31
サ	31
タ	31
ハ	32
マ	32

ラ	32
D.	32
R.	32
索引	33

はじめに

IBM® Cognos® Express® Data Advisor は、マルチディメンション・モデル定義またはリレーショナル・モデル定義のいずれかを作成するツールです。

マルチディメンション・ベースのモデル定義を分析するには、Express Advisor を使用し、リレーショナル・モデル定義を分析するには、Express Reporter を使用します。

このドキュメントは、Express Data Advisor の使用にあたって参照してください。所属組織のデータベースにある 1 つまたは複数のデータ・ソースへのアクセス権は、各組織のシステム管理者または監督者によって与えられます。

対象者

Express Data Advisor は、Microsoft Windows 環境には慣れているけれども、プログラミングやスプレッドシートの難しい計算には関心のないユーザーを念頭に入れて開発されています。

情報の検索

Web 上の IBM Cognos の製品資料 (各国語版のすべての資料を含む) を探す場合は、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。リリース・ノートは、インフォメーション・センターに直接公開されます。これには、最新の技術情報と APAR へのリンクが含まれます。

また、製品のリリース・ノートとインストール・ガイドの PDF 版を IBM Cognos 製品ディスクから直接ご覧いただくこともできます。

将来予想に関する記述

本ドキュメントでは、製品の現在の機能性について説明します。現在ご利用頂けないできない項目への引用が含まれている場合があります。将来的にご利用いただけることを意味するものではありません。このような引用は、資料、コード、または機能を提供するという義務、公約、または法律上の義務を表すものではありません。機能の開発、リリース、および時期は IBM の独自の決定によるものとします。

ユーザー補助機能

本製品は現在、運動制限や視覚制限などの身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を使用することができるユーザー補助機能をサポートしていません。

IBM Cognos の HTML 版の資料には、ユーザー補助機能があります。PDF 版の資料は補助的なものであるため、ユーザー補助機能はありません。

サンプルに関する特記事項

Great Outdoors 社、GO 営業、Great Outdoors 名の変形、およびプランニング・サンプルは、IBM および IBM 顧客のサンプル・アプリケーションを開発するために使用されたサンプル・データの架空の企業運営を表しています。これら架空のデータには、販売取引、製品販売、会計、人事のサンプル・データが含まれています。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。その他のサンプル・ファイルには、手動やマシンで生成された架空のデータ、学術的または一般的なソースから作成された事実に基づいたデータ、または著作権所有者の許可に基づいて使用されるデータが含まれており、サンプル・アプリケーション開発のサンプル・データとして使用することができます。参照されている製品名は個々の所有者の商標です。許可なしで複製することは禁止されています。

第 1 章 システム概要

IBM Cognos Express Data Advisor では、マルチディメンション・ベースのモデル定義とリレーショナル・モデル定義を作成することができます。Express Data Advisor Server では、これらのモデル定義を使用してマルチディメンション・パッケージとリレーショナル定義を生成します。

これらのパッケージを使用すると、Express Advisor および Express Reporter でデータを分析することができます。

システムの導入

このセクションでは、IBM Cognos Express Data Advisor システムの概要を説明します。

IBM Cognos Express Data Advisor には、モデル定義を作成するための以下のコンポーネントや項目があります。

- データ

モデル定義を含めるテーブルを定義することができます。

- 関係

テーブルのフィールド間の関係を作成することができます。

- 報告

Express Data Advisor には、作業モデル定義を作成するためのガイダンスが用意されています。

- ディメンション

ディメンションには、実際のコンテキストや実際の数値データのいずれかを説明する関連項目が含まれています。コンテキスト・ディメンションには、時間、製品、人材、および場所があります。数値データ・ディメンションには、数量や値があります。ディメンションは階層構造を形成することができます。例えば、場所のディメンションには、地域、市区町村、ビル、階があります。

- メンバー

メンバーは 1 つのタイプのデータです。メンバーはディメンションごとにグループ化されています。

IBM Cognos Express Data Advisor のシステム要件

IBM Cognos Express Data Advisor のクライアント・システムは以下の要件を満たしている必要があります。

要件	仕様
オペレーティング・システム。 注: オペレーティング・システムに、最新のサービス・パックおよび現行のすべてのアップデートがインストールされているか確認してください。	<ul style="list-style-type: none">- Microsoft Windows XP Professional- Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition- Microsoft Windows Server 2003 Standard x64 Edition- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition- Microsoft Windows Server 2008- Microsoft Windows Server 2008 x64 Edition- Microsoft Windows Vista Business、またはそれ以降- Microsoft Windows Vista x64 Edition Business、またはそれ以降- Microsoft Windows 7
ディスク空き容量	10 MB
メモリー	512 MB
プロセッサー	Pentium 4 以上
色の表示	16 ビット・カラー以上

第 2 章 ご利用の手引き

このセクションでは、IBM Cognos Express Data Advisor の最初の起動について説明します。

Express Data Advisor は、リレーショナル・データベースからモデル定義を生成します。これらのモデル定義をパッケージとしてエクスポートし、Express Advisor または Query Studio のいずれかでそれらを開くことができます。

IBM Cognos Express Data Advisor を使用する

IBM Cognos Express Data Advisor のインストール・オプションは、IBM Cognos Express をインストールする前に使用できます。

- ODBC データ・ソースの Express Data Advisor クライアント・システムを構成する必要があります。詳細については、23 ページの『Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する』を参照してください。
- 最高の結果を得るためには、Express Data Advisor のクライアントバージョンと、Express Data Advisor Server のバージョンが同じレベルである必要があります。詳細については、4 ページの『Express Data Advisor を起動する』を参照してください。

ODBC データ・ソースに Express Data Advisor クライアント・システムを構成する

マルチディメンション・キューブを生成するには、次の 2 つの方法を使用することができます。

- クライアント・ベース
- サーバー・ベース

このタスクについて

クライアント・ベース法では、ODBC を Express Data Advisor クライアント・システムにのみ構成する必要があります。

サーバー・ベース法では、Express Data Advisor サーバー・システムと Express Data Advisor クライアント・システムに同じに ODBC データ・ソースを構成する必要があります。Express Data Advisor サーバーと Express Data Advisor クライアントの両方の ODBC データ・ソースが同じ名前で、同じリレーショナル・データベースにリンクされている必要があります。

システム管理者は、クライアント・システムと ODBC データ・ソースが正しく設定されていることを確認する必要があります。詳細については、23 ページの『Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する』、または「*IBM Cognos Express の管理*」ガイドの『IBM Cognos Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する』のいずれかを参照してください。

Express Data Advisor を起動する

IBM Cognos Express Data Advisor を開始する前に、インストールする必要があります。

Express Data Advisor のインストール

クライアント・システムで使用するために Express Data Advisor の最新バージョンをインストールすることができます。Express Data Advisor が既にインストールされている場合は、データを失うことなく既存のバージョンに上書きされます。

手順

1. システム管理者が提供したアドレスを使用して「**IBM Cognos Express** へようこそ」ページに移動します。

システム管理者から「**IBM Cognos Express** へようこそ」ページのアドレスが送られてきているはずです。

2. 「**個人用コンピューターに Express ソフトウェアをダウンロード**」を選択します。
3. 「**Data Advisor**」を選択します。

Data Advisor がインストールされます。

Express Data Advisor を開始する

Express Data Advisor がインストールされたら、開始できます。

手順

「**スタート**」 > 「**すべてのプログラム**」 > 「**IBM Cognos Express**」 > 「**Data Advisor**」の順にクリックします。

Express Data Advisor のフロー・プロセス

次の IBM Cognos Express Data Advisor のフロー・プロセスに従って、モデル定義の作成およびデータの分析を行うことができます。

手順

1. Express Manager のようこそページのリンクを受信します。
2. Express Data Advisor をインストールします。
3. Express Data Advisor を起動します。
4. マルチディメンションまたはリレーショナルのモデル定義を作成します。定義の名前とデータ・ソースを指定する必要があります。
5. マルチディメンションまたはリレーショナルのモデル定義を設定します。これを実行するには、Data Advisor から「**データを選択**」、「**関係を定義**」、「**ディメンションを作成**」ウィンドウを順に選択します。「**ディメンションを作成**」ウィンドウは、マルチディメンション・モデル定義を作成する場合にのみ使用できません。
6. テーブルをプレビューします。
7. モデル定義を保存します。
8. Express Advisor または Express Query Studio でデータを分析します。

第 3 章 IBM Cognos Express Data Advisor を使用する

IBM Cognos Express Data Advisor では、マルチディメンション・ベースまたはリレーショナル表ベースのいずれかのモデル定義を作成して、分析目的用にリレーショナル・データベースを使用することができます。このモデル定義を使用して、Express Data Advisor Server は、キューブまたはリレーショナル・パッケージのいずれかを生成します。

マルチディメンション・パッケージを使用して、Express Advisor でデータを分析することができます。リレーショナル・パッケージを使用して、Query Studio でデータを分析できます。

Express Data Advisor を使用する前に、いくつかの設定を構成する必要があります。

IBM Cognos Express Data Advisor を設定する

IBM Cognos Express Data Advisor を Microsoft Windows のスタート・メニューから起動します。

手順

1. 「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM Cognos Express」>「Data Advisor」の順にクリックします。
2. 次のいずれかを選択します。

- 「新規モデル定義の作成」アイコン 。

詳細については、12 ページの『特定の ODBC データ・ソースのモデル定義の作成』を参照してください。

- 「既存のモデル定義を開く」アイコン 。

詳細については、13 ページの『モデル定義を開く』を参照してください。

- 最近使用したモデル定義を開く。

Data Advisor を構成する

IBM Cognos Express Data Advisor を使用する前に、構成する必要があります。


Cognos Express Data Advisor に以下の項目を構成することができます。

- Express Data Advisor Server への接続
- ユーザー・インターフェースの言語
- 「アドバイザー」ウィンドウの表示
- モデル定義のデフォルトの場所

接続を設定する

Express Data Advisor をインストールすると、Express がインストールされているマシンを参照するように接続情報が設定されます。別の Express インストールに接続する場合は、接続情報を変更することができます。

手順

1. Express Data Advisor で、「設定を構成」アイコン  をクリックして、「設定」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 「ディスパッチャー」フィールドに Express ディスパッチャーの場所を指定します。

Express ディスパッチャーの場所は、以下のような Web ページとして指定します。


```
http://<SERVER>:19300/p2pd/servlet/dispatch
```

<SERVER> は、Express がインストールされているマシンの名前です。

言語を変更する

Express Data Advisor ではいくつかの言語が使用できます。


手順

1. Express Data Advisor で、「設定を構成」アイコン  をクリックして、「設定」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. システムの地域設定を使用するように選択したり、メニューから言語を選択することができます。

「アドバイザリー」ウィンドウを表示する

「アドバイザリー」ウィンドウは、独自のモデル定義に関するアドバイスを提供します。


手順

1. Express Data Advisor で、「設定を構成」アイコン  をクリックして、「設定」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 「ユーザー・インターフェース」セクションで、「アドバイザリー・ウィンドウを表示する」オプションを設定します。

モデル定義のデフォルトの場所を設定する

モデル定義のデフォルトの場所を変更することができます。

手順

1. Express Data Advisor で、「設定を構成」アイコン  をクリックして、「設定」ダイアログ・ボックスを開きます。

2. 「モデル定義フォルダー」フィールドで、モデル定義のデフォルトの場所を変更します。

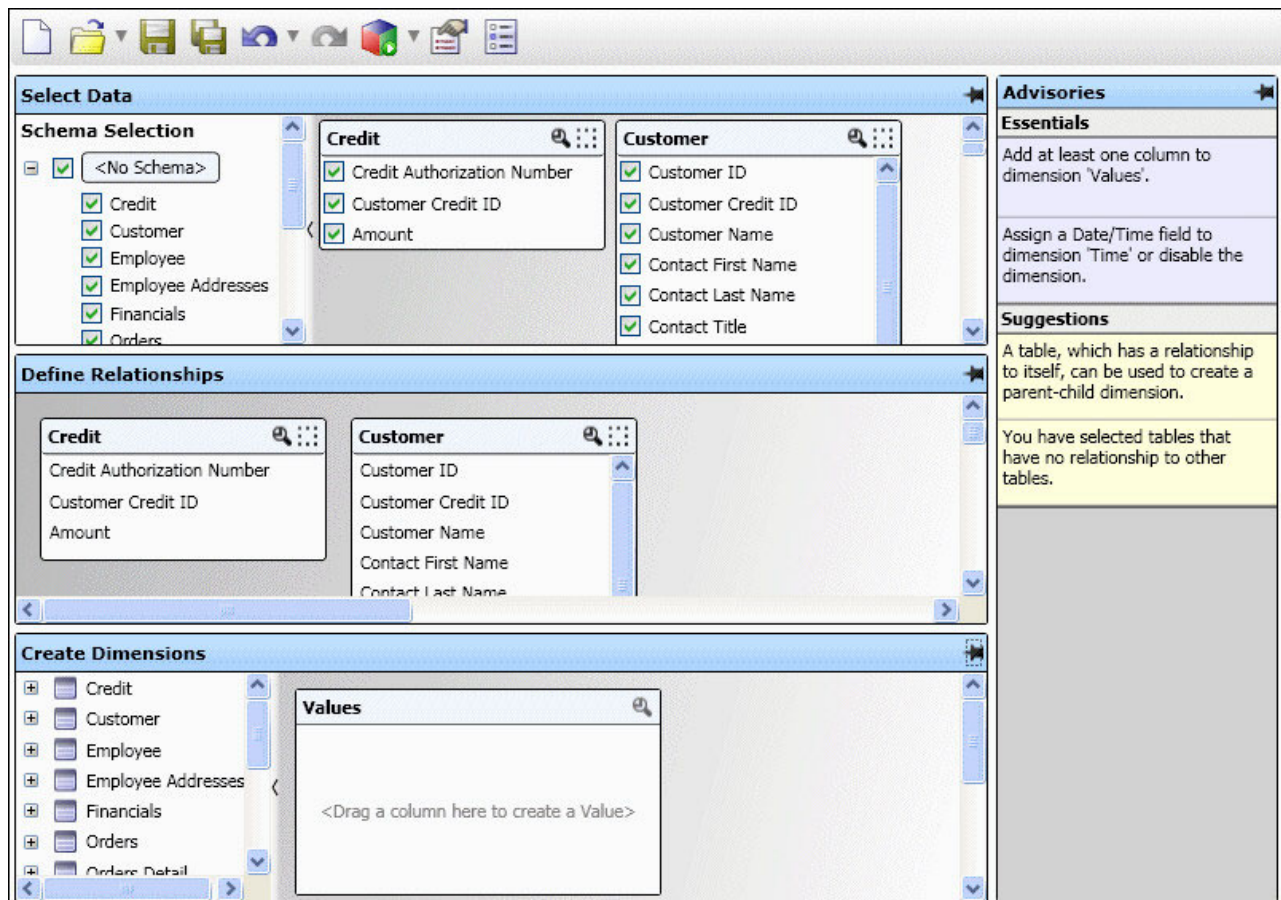
モデル定義のデフォルトの場所: *C:\Documents and Settings\user name\My Documents\My IBM Cognos Express Advisor\Model Definitions.*

IBM Cognos Express Data Advisor のユーザー・インターフェース

このセクションでは、IBM Cognos Express Data Advisor のユーザー・インターフェースについて説明します。

Cognos Express Data Advisor のユーザー・インターフェースの構成要素は以下のとおりです。

- ツールバー
- 「データを選択」ウィンドウ
- 「関係を定義」ウィンドウ
- 「ディメンションを作成」ウィンドウ
- 「アドバイザリー」ウィンドウ



ツールバー

IBM Cognos Express Data Advisor のツールバーには、アクションを実行するためのボタンがあります。

アイコン	目的
	新規モデル定義を作成します。
	既存のモデル定義を開きます。
	モデル定義を保存します。
	モデル定義を別の場所に保存します。
	最後の操作を元に戻します。
	最後の操作をやり直します。
	キューブを作成します。
	キューブを作成および分析します。
	モデルを作成します。
	モデルを作成および使用します。
	オプションを構成します。
	モデル定義プロパティを設定します。

ウィンドウ間のやりとり

「データを選択」ウィンドウ、「関係を定義」ウィンドウ、および「ディメンションを作成」ウィンドウは互いにやり取りします。例えば、「データを選択」ウィンドウのテーブルを無効にすると、そのテーブルは「関係を定義」ウィンドウで使用できません。

3つのウィンドウ間でテーブルからフィールドをドラッグ・アンド・ドロップして関係とディメンションを作成することもできます。

ワークフロー

リレーショナル・データの分析を開始すると、IBM Cognos Express Data Advisor でモデル定義を作成します。マルチディメンション・モデル定義かリレーショナル・モデル定義のいずれかを作成することができます。

- 以下の説明のように、クライアントかサーバーのいずれかにマルチディメンション・モデル定義を生成することができます。
 - クライアント・ベース。クライアントだけがソース・データへアクセスする必要があります。
 - サーバー・ベース。パフォーマンスを高める場合にこの方法を使用します。クライアントおよびサーバー・システムの両方がソース・データへアクセスする必要があります。
- リレーショナル・モデル定義は、クライアントとサーバー・システムの両方が同じソース・データへのアクセス権を持っている必要があります。リレーショナル・モデル定義は、ディメンションを含みません。


クライアントおよびサーバー・システムのソース・データを設定することに関する詳細情報は、23 ページの『Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する』セクションを参照してください。

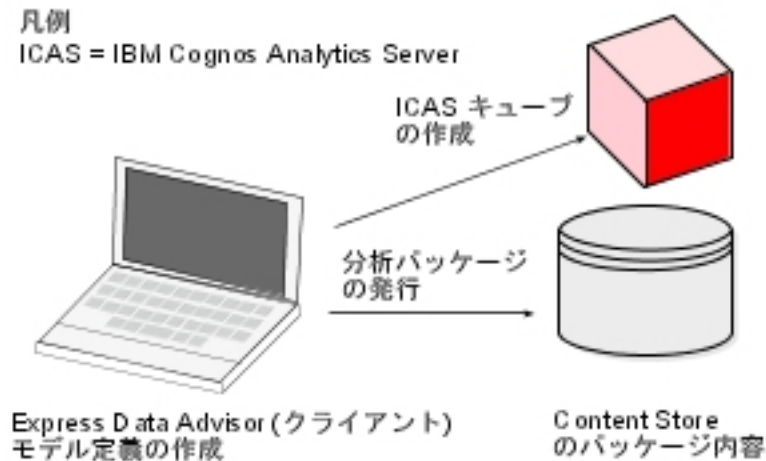
マルチディメンション・ベースのモデル定義

完全なマルチディメンション・ベースのモデル定義は、リレーショナル・データ・ソースのテーブルと関係が作成するディメンションを含みます。これらのディメンションは、Express Advisor が分析するマルチディメンション・データベースの基盤を形成します。

キューブを作成する

このセクションでは、キューブの作成について説明します。

「キューブの作成」アイコン  をクリックすると、キューブが IBM Cognos Analytic Server に生成されます。また分析パッケージは、生成された ICASI キューブの参照を作成する Content Store の「個人用フォルダー」または「共有フォルダー」のいずれかに発行されます。

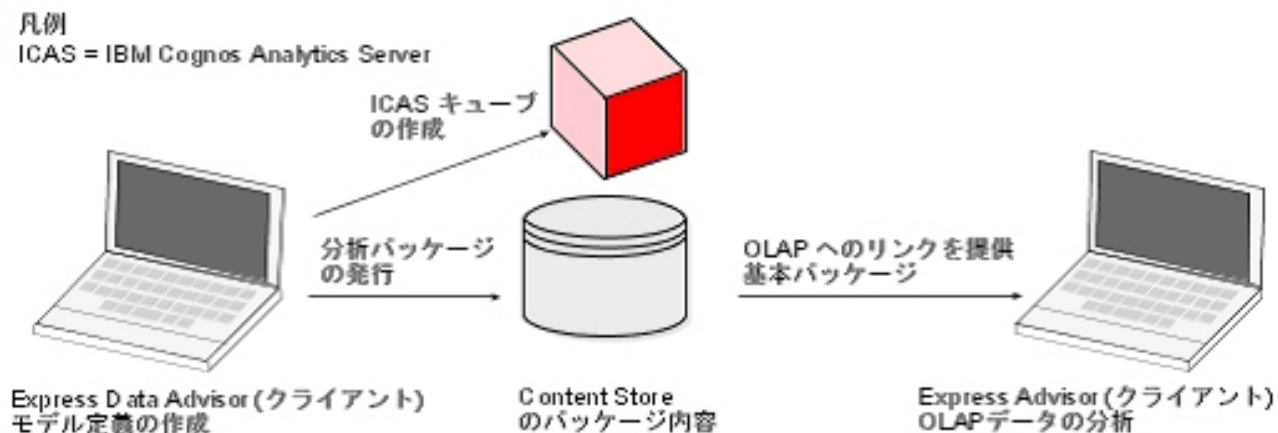


キューブの作成および分析

このセクションでは、キューブの作成および分析について説明します。

「キューブの作成と分析」アイコン  をクリックすると、キューブが IBM Cognos Analytic Server に生成されます。また分析パッケージは、生成された ICASI キューブの参照を作成する Content Store の「個人用フォルダー」または「共有フォルダー」のいずれかに発行されます。Express Data Advisor Server は、ビューを含んでいるパッケージを表示して、Express Advisor にそれを表示します。ビューはマルチディメンション分析の開始点です。

注: 分析関数が既存のパッケージやキューブを更新する場合に、警告メッセージが表示されます。




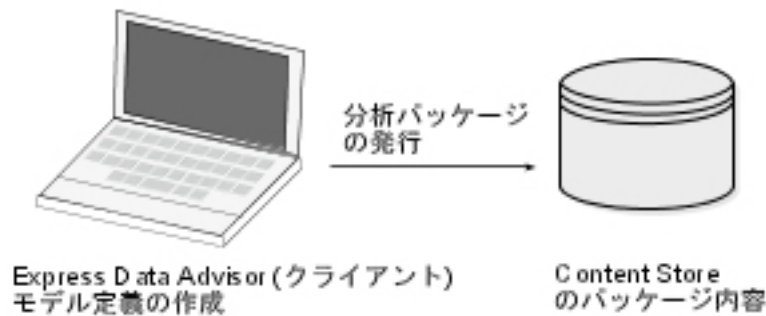
リレーショナル・モデル定義

完全なリレーショナル・モデル定義は、リレーショナル・データ・ソースのテーブルと関係を含みます。

モデルの作成

このセクションでは、モデルの作成について説明します。

「モデルの作成」アイコン  をクリックすると、リレーショナル・パッケージが **Content Store** の「個人用フォルダー」か「共有フォルダー」のいずれかに発行されます。



特定のデータ・ソースのモデル定義の作成

特定のデータ・ソース・タイプのモデル定義を作成する場合、ODBC 接続の構成を省略できます。

このタスクについて

accdb、csv、mdb、txt、xls、xlsb、および xlsx の拡張子を持つファイル・ベースのデータ・ソースについては、ODBC 構成を作成する必要がありません。


注: xlsx ファイルの使用から xls ファイルの使用に切り替えるには、まず Express Data Advisor を終了して再起動する必要があります。

手順

1. Express Data Advisor を開きます。
2. ファイルを Data Advisor にドラッグします。モデル定義が作成されます。
3. 「モデル定義のプロパティ」アイコンをクリックして、プロパティを変更できます。

モデルの作成および使用

このセクションでは、モデルの作成および使用について説明します。

「モデルの作成および使用」アイコン  をクリックすると、リレーショナル・パッケージが **Content Store** の「個人用フォルダー」か「共有フォルダー」のいずれかに発行されます。Express Data Advisor Server は Query Studio にパッケージを表示します。レポートは、リレーショナル分析の開始点です。


注記: 分析関数が既存のパッケージを更新する場合に、警告メッセージが表示されます。



特定の ODBC データ・ソースのモデル定義の作成


モデル定義を作成するには、使用可能な ODBC データ・ソースに接続する必要があります。ODBC データ・ソースを作成する必要がある場合は、システム管理者に問い合わせてください。

始める前に

注: モデル定義を作成した後に「モデル定義のプロパティ」アイコン  をクリックして、これらのプロパティを変更することもできます。

ヒント: ご使用のシステムに Microsoft Office がインストールされている場合は、Microsoft Access および Microsoft Excel のファイル・タイプに基づいた ODBC 接続を作成できます。

手順

1. 「新規モデル定義」アイコン  をクリックします。
2. 「新規モデル定義」ダイアログ・ボックスの「全般」タブで、次のプロパティを指定します。

- **名前**

モデル定義の名前です。この名前は、モデル定義を保存する場合のファイル名にもなります。またこの名前は、パッケージのキューブの名前に使用されません。

- **データ・ソース**

「データ・ソース」には、ODBC 接続で定義されている、使用可能な ODBC データ・ソースのドロップダウン・リストが含まれます。また、該当するオプションを使用して、Excel ファイル、Access ファイル、および dBase ファイルに直接データ・ソースを作成することもできます。

- **パッケージ**

このオプションを使用すると、パッケージを Content Store 内の「共有フォルダー」または「個人用フォルダー」に保存できます。

Content Store 内の「共有フォルダー」にアクセスできるのは、許可されたユーザーのみです。「個人用フォルダー」にアクセスが許可されているのは、そ

の個人のみです。パッケージは、Content Store 内の「共有フォルダー」または「個人用フォルダー」のどちらにでも保存できます。

- **モデル**



マルチディメンション・ベースのモデル定義かリレーショナル・モデル定義のどちらを作成するかを指定します。

3. 「**新規モデル定義**」ダイアログ・ボックスの「**詳細**」タブで、次のプロパティを指定します。
 - クライアント・システムから ODBC データ・ソースを使用する場合にのみ、「**クライアント・ベース**」を使用します。
 - クライアントとサーバーの両方で ODBC データ・ソースを使用する場合は、「**サーバー・ベース**」を使用します。

モデル定義を保存する

後から使用するために、モデル定義を保存できます。


手順

「**モデル定義の保存**」アイコン  をクリックします。モデル定義の名前は、ファイル名としても使用されます。モデル定義を別の場所に保存する場合は、「**名前を付けてモデル定義を保存**」アイコン  をクリックします。

モデル定義を開く

モデル定義を開くことにより、そのモデル定義を使用することが可能になります。

手順

1. 「**モデル定義を開く**」アイコン  をクリックします。
2. 既存のモデル定義を選択して、「**開く**」をクリックします。

注: 矢印アイコン  をクリックして最近使用したモデル定義を開きます。

モデル定義を使用する

モデル定義は、リレーショナル・データの分析の基盤となります。

モデル定義を作成したら (12 ページの『特定の ODBC データ・ソースのモデル定義の作成』を参照)、それを構成する必要があります。モデル定義で、以下を行うことができます。

- 希望のテーブルでデータを選択する。
- テーブルのフィールド間の関係を定義する。
- データ・ソースのテーブルと関係に基づいてディメンションを作成する。

注: デイメンションは、マルチデイメンション・ベースのモデル定義でのみ使用できます。モデル定義の作成中に、マルチデイメンションからリレーショナルへ切り替えると、デイメンション設定は保存されます。

モデル定義を構成したら、IBM Cognos Express Advisor または Query Studio でデータを分析することができます。

データを選択する


希望のテーブルを設定することができます。

「データを選択」ペインで、希望のテーブルを設定できます。希望しないテーブルはモデル定義から除外することができます。

スキーマの選択

Express Data Advisor は、データベースの関係を説明するスキーマをサポートします。特定のテーブルからデータを選択だけする場合は、スキーマを使用してデータベースのテーブルを表示または非表示に使用することができます。

手順



1. 「データを選択」ウィンドウの左側にある矢印アイコン  をクリックして「スキーマの選択」セクションを表示します。
2. モデル定義で使用するスキーマとテーブルを選択します。すべてのテーブルを含むスキーマを選択するか、スキーマで使用可能なテーブルを選択することができます。

データを選択する

希望のテーブルを設定することができます。希望しないテーブルはモデル定義から除外することができます。

手順

「データを選択」ウィンドウで、希望のテーブルを指定します。

「このテーブルを無効にする」アイコン  をクリックしてデータを無効にするか、「このテーブルを有効にする」アイコン  をクリックしてデータを有効にすることができます。

テーブルとフィールドの名前を変更

テーブルとフィールドの名前を変更することができます。

手順

1. 「データを選択」ウィンドウで、変更する名前をダブルクリックします。
2. 名前を変更します。

フィールド間の関係を作成する

テーブルのフィールドを同じテーブルの別のフィールドや別のテーブルのフィールドに関係させることができます。

例えば、顧客情報のテーブルがある場合、*customer_id* というフィールドがあります。年次売上高を含んでいる別のテーブルでも、*customer_id* というフィールドが使用できます。関連の整合性を強化する場合は、2 つのフィールド間に関係を設定する必要があります。

同じテーブルの 2 つのフィールド間に関係を作成すると、自動上下関係が作成されます。これは、自動上下ディメンションを作成するのに使用することができます。

自動上下ディメンションの例としては、従業員データを保存するテーブルの *employee_id* と *supervisor_id* 間の関係があります。

関係を定義または削除することができます。

リレーショナル・モデル定義の 2 つのフィールド間に関係を作成する場合は、「**関係プロパティ**」を指定する必要があります。マルチディメンション・ベースのモデル定義の場合は、自動的に「**関係プロパティ**」が設定されます。詳細については、17 ページの『モデル定義の関係プロパティを設定する』を参照してください。

関係を定義する

このセクションでは、テーブルのフィールド間の関係を定義する方法について説明します。

手順

1. 「**関係を定義**」ウィンドウで、関係を定義する 2 つのフィールドを指定します。
2. 1 つのフィールドを他のフィールドの上にドラッグ・アンド・ドロップします。

別のフィールド上にドラッグする場合は、以下を注意してください。

- 同じ名前のフィールドがハイライトされる。これは、これらが推奨された関係であることを表します。



マウス・カーソルは  のようになります。

- 同じタイプであるフィールド (例えば、整数と整数) の場合は、関係を作成できます。



マウス・カーソルは  のようになります。

- 異なるタイプのフィールド (例えば、整数とテキスト) の場合は、関係を作成できません。



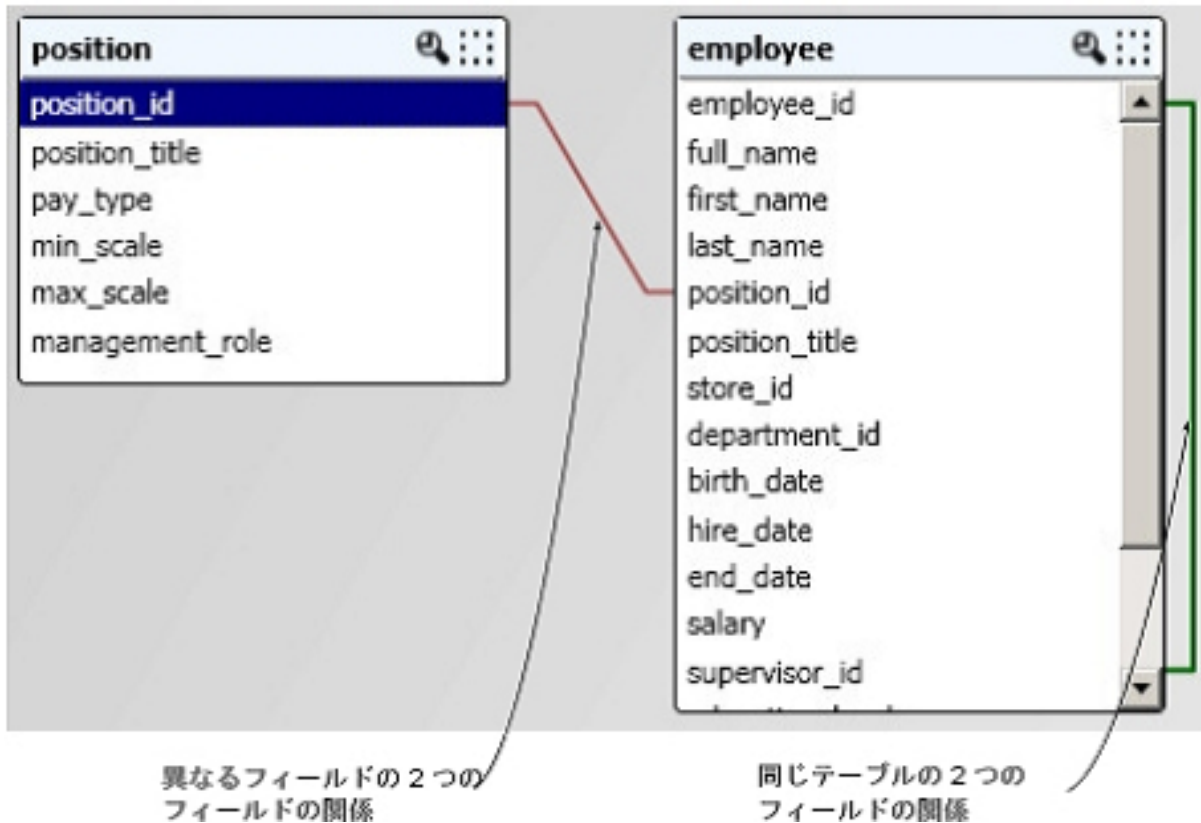
マウス・カーソルは  のようになります。

タスクの結果

テーブルのフィールド間の関係を定義した場合は、その関係は線で表されます。

- 赤の線は、異なるテーブルの 2 つのフィールド間の関係を表します。

- 緑の線は、同じテーブルの 2 つのフィールド間の関係を表します。




フィールドをドラッグ・アンド・ドロップして関係を作成する

関係を作成する別の方法について説明します。

「データを選択」ウィンドウのフィールドを「関係を定義」へ、またはその逆にドラッグ・アンド・ドロップしても関係を作成することができます。

手順

1. 「データを選択」ウィンドウまたは「関係を定義」ウィンドウのいずれかで、別のフィールドにリンクするフィールドを指定します。
2. フィールドをクリックして、任意のウィンドウから別のウィンドウにドラッグし

ます。マウス・カーソルは  のようになり、有効な関係を表します。

フィールド間の線は、「関係を定義」ウィンドウでその関係を表します。

関係を削除する

フィールド間の関係が必要でなくなった場合は、関係を削除することができます。

手順

モデル定義で、関係を右クリックして「関係を削除」を選択します。

関係を定義するウィンドウでテーブルとフィールドの名前を変更する

テーブルとフィールドの名前を変更することができます。

手順

1. 「関係を定義」ウィンドウで、変更する名前をダブルクリックします。
2. 名前を変更します。

モデル定義の関係プロパティを設定する

リレーショナル・モデル定義を作成する場合は、2 つのテーブル間の関係を指定する必要があります。

マルチディメンション・ベースのモデル定義の場合は、自動的に「関係プロパティ」が設定されます。データ・テーブル間の関係は、各テーブルが別のテーブルにリンクする方法を定義します。次のいずれかを使用して、2 つのテーブル間の各サイドの関係を指定することができます。

- 不明
- ゼロまたは 1 つ
- ゼロまたは複数
- 1 つ
- 1 つまたは複数

手順

1. 2 つのフィールド間の関係を作成します。詳細については、15 ページの『関係を定義する』 または 20 ページの『フィールドをドラッグ・アンド・ドロップしてディメンションを作成する』を参照してください。

「関係プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「関係プロパティ」ダイアログ・ボックスでフィールドを互いに関係させる方法を指定します。関係リンクを右クリックし、「関係プロパティ」をクリックして「関係プロパティ」ダイアログ・ボックスを表示することもできます。
3. 親フィールドと子フィールド間の関係を反転する場合は、「反転」アイコンを押します。

注: リレーショナル・モデル定義の場合は、テーブル間の関係を「不明」に設定しないでください。

ディメンション

ディメンションは、Express Data Advisor が作成するマルチディメンション・データベースの基盤を形成します。Express Advisor では、分析用にマルチディメンション・データベースを使用します。

有効なモデル定義を持つディメンションを作成する必要があります。

注:

- ディメンションは、マルチディメンション・ベースのモデル定義でのみ使用できます。

- モデル定義の作成中に、マルチディメンションからリレーショナルへ切り替えると、ディメンション設定は保存されます。

デフォルトでは、モデル定義には 2 つのディメンションがあります。

- **値** ディメンション

「**値**」ディメンションは必須です。モデル定義からそれを除外することはできません。測定されたデータを含んでいるディメンションを作成するには値ディメンションを使用します。例えば、店の利益。

「**値**」ディメンションは、「**数値データ**」ディメンションとして知られています。

- 「**時間**」ディメンション

「**時間**」ディメンションは必須ではありません。但し、モデル定義では「**時間**」ディメンションを通常使用します。「**時間**」ディメンションでは、時間の過程上の測定を分析できます。例えば、過去の月の特定の店の利益を評価することができます。

ディメンションを作成する

フィールドを「**ディメンションを作成**」ウィンドウの左セクションから「**ディメンションを作成**」ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップしてディメンションを作成することができます。最初にフィールドをドラッグするテーブルは、ディメンションの名前を決定します。


「**ディメンションを作成**」ウィンドウの左側で、ディメンションと階層を作成するために使用できるフィールドのリストが使用できます。

有効なフィールドがアルファベット順でリスト表示され、「**関係を定義**」ウィンドウに表示されているテーブルとフィールドを表示します。

時間ディメンションと自動上下ディメンションは特殊ディメンションです。詳細については、19 ページの『**時間ディメンションを構成する**』を参照してください。

1 つのディメンションに 1 つまたは複数のレベルを作成することができます。作成したディメンションに複数のフィールドをドラッグ・アンド・ドロップしてこれを行います。

手順

1. 「**ディメンションを作成**」ウィンドウの左部分で、作成するディメンションを含むテーブルのツリーを展開します。
2.  アイコンがあるテーブルからフィールドをドラッグして「**ディメンションを作成**」ウィンドウにドロップします。

次の 2 つのオプションがあります。

- 新しいディメンションを作成するには、「**ディメンションを作成**」ウィンドウの空白領域にフィールドをドロップします。
- レベルを追加して既存のディメンションを拡張するには、「**ディメンションを作成**」ウィンドウの既存のディメンションにフィールドをドロップします。


時間ディメンションを構成する

データを分析する場合必要な詳細のレベルを指定すると、時間ディメンションのレベルは自動的に作成されます。データ範囲を指定することで、時間ディメンションにフィルターを設定することができます。

手順

1. 時間ディメンションで、ドロップダウン・リスト・ボックスをクリックします。
2. 以下の詳細レベルのいずれか 1 つを選択します。
 - 年 > 月
 - 年 > 四半期 > 月
 - 年 > 月 > 日
 - 年 > 四半期 > 月 > 日
 - 年 > 月 > 日 > 時間 > 分
 - 年 > 四半期 > 月 > 日 > 時間 > 分
3. 「ディメンションを作成」ウィンドウの時間ディメンションに日付または時間フィールドをドラッグ・アンド・ドロップします。
4. 「日付の範囲の制限」セクションで、「後」および「前」フィールドに日付を入力して、このディメンションのフィルターを作成します。

「後」および「前」の日付の書式設定については、ツールチップを参照してください。

時間ディメンションのフィルターから「後」および「前」の日付を削除する場合は、「このフィルター条件を無効にする」アイコン  をクリックします。

自動上下ディメンションを作成する

自動上下ディメンションは、同じテーブルの 2 つのフィールド間の関係に基づいています。自動上下ディメンションは、親子ディメンションとしても知られています。


自動上下ディメンションが作成されると、それにレベルを追加することはできません。関係が定義されたテーブルの構造は、レベルの数を定義します。

自動上下ディメンションのデータは統合されます。例えば、テーブルの *employee_id* と *supervisor_id* 間の関係によって自動上下ディメンションが作成される場合、従業員のグループの管理者も従業員のそのグループの一員になります。これは、管理者のそのデータをソース・データベースから確実にインポートできるようにするためです。

自動上下ディメンションをプレビューする場合は、統合されたフィールドは「連結」という文字で表されます。詳細については、21 ページの『テーブルとディメンションをプレビューする』を参照してください。

手順

1. 「ディメンションを作成」ウィンドウの左側で、作成するディメンションを含むテーブルのツリーを展開します。

2. 関係アイコン  があるフィールドをテーブルからドラッグして、「ディメンションの作成」ペインにドロップします。

新しい自動上下ディメンションが作成されます。

3. 同じテーブルからフィールドを自動上下ディメンションにドラッグ・アンド・ドロップします。そのフィールドは、ディメンション要素名になります。

注: レベルを既存の自動上下ディメンションに追加することはできません。既存の自動上下ディメンションに別のフィールドをドラッグ・アンド・ドロップすると、フィールドは置き換えられます。


フィールドをドラッグ・アンド・ドロップしてディメンションを作成する

ディメンションを作成する別の方法について説明します。

「データを選択」ウィンドウ、または「関係を定義」ウィンドウからフィールドを「ディメンションを作成」ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップしてディメンションを作成することができます。

手順

1. 「データを選択」ウィンドウ、または「関係を定義」ウィンドウのどちらかで、ディメンションを作成するフィールドを指定します。
2. フィールドをクリックして、「ディメンションを作成」ウィンドウにドラッグします。

「ディメンションを作成」ウィンドウで、マウス・カーソルは  のようになります。

次の 2 つのオプションがあります。

- 新しいディメンションを作成するには、「ディメンションを作成」ウィンドウの空白領域にフィールドをドロップします。
- レベルを追加して既存のディメンションを拡張するには、「ディメンションを作成」ウィンドウの既存のディメンションにフィールドをドロップします。

ディメンションを作成するウィンドウでディメンションとレベルの名前を変更する

ディメンションとレベルの名前を変更することができます。

手順


1. 「ディメンションを作成」ウィンドウで、変更する名前をダブルクリックします。
2. 名前を変更します。


注: 時間ディメンション、または自動上下ディメンションのレベルの名前を変更することはできません。

ディメンションを削除する

モデル定義でディメンションを使用する必要がなくなった場合は、そのディメンションを削除することができます。

手順

1. 「ディメンションを作成」ウィンドウで、削除するディメンションを指定します。
2. 「ディメンションを削除」アイコン  をクリックします。

注: 時間ディメンションを削除することはできません。時間ディメンションは、「ディメンションを無効にする」アイコン  をクリックすることで無効にすることしかできません。

テーブルとディメンションをプレビューする



モデル定義のテーブルやディメンションのデータをプレビューすることができます。

「データを選択」ウィンドウと「関係を定義」ウィンドウのプレビューでは、列の名前をダブルクリックして列の名前を変更することができます。

「データを選択」ウィンドウのプレビューでは、プレビュー・ウィンドウの列の選択や削除で列を有効または無効にすることができます。

プレビュー・ウィンドウで行う変更はテーブルに反映されます。

手順

モデル定義で、「テーブル・プレビューを表示」アイコン  または「ディメンション・プレビューを表示」アイコン  のいずれかをクリックします。

データを分析する

モデル定義を作成したら、Express Advisor または Query Studio のいずれかでデータの分析を開始することができます。

付録. Express Data Advisor の ODBC 環境を構成する

このセクションでは、管理者が行う必要がある ODBC 環境のクライアント・システムとサーバーの設定について説明します。

マルチディメンション・キューブを生成するには、次の 2 つの方法を使用することができます。

- クライアント・ベース。管理者はクライアントだけを設定する必要があります。Express Data Advisor は、データ・ファイルを生成し、そのデータ・ファイルとともにモデル定義をサーバーに送信します。サーバーはデータ・ファイルとモデルの仕様を使って、マルチディメンション・キューブを生成するデータ・ファイルを生成します。Data Advisor でクライアント・ベースのメソッドを使用する場合は、最初にクライアント・システムで ODBC データ・ソースを構成する必要があります。ただし、accdb、csv、mdb、txt、xls、xlsb、およびxlsx の拡張子を持つファイル・ベースのデータ・ソースでは、この手順を省略できます。
- サーバー・ベース。管理者はクライアントとサーバーの両方を設定する必要があります。Express Data Advisor は、ODBC データ・ソースにアクセスするサーバーにモデル定義を送信し、マルチディメンション・キューブを生成する TM1[®] のデータ・ファイルを生成します。ODBC データ・ソースはクライアント・システムとサーバー・システムの両方に必要です。

クライアント・ベース法の設定

クライアント・システムで、ODBC データ・ソースを設定することができます。

手順

1. 「スタート」>「コントロール パネル」の順にクリックします。
2. 「管理ツール」>「データ・ソース (ODBC)」の順にダブルクリックします。

注: 64 ビットのクライアント・システムでは、ODBC データ・ソースは 32 ビットでなければなりません。32 ビットのデータ・ソース・アプリケーションを使用してください。「スタート」>「ファイル名を指定して実行」の順にクリックして、次のように入力します。

```
%WINDIR%\SysWOW64\odbcad32.exe
```

3. 「ODBC データ・ソース・アドミニストレーター」ダイアログ・ボックスで、「システム DSN」タブを選択し、「追加」をクリックします。
4. 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスのメニューで、データ・ソース・ドライバを選択して、「完了」をクリックします。
5. 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスで、ドライバ・タイプに関する画面上の指示に従って入力します。必要なフィールドはデータ・ソース・タイプごとになります。システム管理者がサーバーで使用する同じ命名規則を使ってください。

データ・ソース名はサーバーとクライアント・システムの両方で同じでなければなりません。

- すべてのダイアログ・ボックスが閉じるまで「OK」をクリックします。

サーバー・ベース法の設定

サーバー・ベース法には他の設定が必要です。特定の ODBC データベースに、サーバーとクライアントの両方を設定する必要があります。

ODBC データ・ソースの設定は、IBM Cognos Express Data Advisor Server システムと Express Data Advisor クライアント・システムの両方で同じにする必要があります。Express Advisor サーバーと Data Advisor クライアントの両方の ODBC データ・ソースが同じ名前で、同じリレーショナル・データベースにリンクされている必要があります。

サーバーの設定

Express 管理者がサーバー上で Express Data Advisor の ODBC データ・ソースを設定する場合は、以下の手順に従ってください。サーバーでの手順は、クライアントでの手順とわずかに異なります。

64 ビットのサーバーには、32 ビット ODBC データ・ソースが必要です。このためには、32 ビットのデータ・ソース・アプリケーションを使用します。

手順

- 「スタート」>「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 「名前」フィールドに、次のように入力します。

```
%WINDIR%\SysWOW64\odbcad32.exe
```

- 「OK」をクリックして、32 ビットのデータ・ソース・アプリケーションを起動します。
- 「ODBC データ・ソース・アドミニストレーター」ダイアログ・ボックスで、「システム DSN」タブを選択して、「追加」をクリックします。
- 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスのメニューで、データ・ソース・ドライバーを選択して、「完了」をクリックします。
- 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスで、ドライバー・タイプに関する画面上の指示に従って入力します。必要なフィールドはデータ・ソース・タイプごとになりますが、通常次の項目が含まれます。
 - データ・ソース名 - 入力必須
 - データ・ソースの説明
 - データ・ソースのサーバー
 - データ・ソースのアドレス

注記: データ・ソース名はサーバーとクライアント・システムの両方で同じでなければなりません。

- すべてのダイアログ・ボックスが閉じるまで「OK」をクリックします。

クライアントの設定

サーバー・ベース法では、Express Data Advisor の ODBC をサーバー・システムとクライアント・システムの両方に設定する必要があります。

クライアント・システムで Express Data Advisor の ODBC データ・ソースを設定するには、次の手順を行います。

手順

1. Express Data Advisor Server を設定してから、クライアント・システムを設定してください。
2. 「スタート」>「コントロール パネル」の順にクリックします。
3. 「管理ツール」>「データ・ソース (ODBC)」の順にダブルクリックします。

注: 64 ビットのクライアント・システムには、32 ビットの ODBC データ・ソースが必要です。このためには、32 ビットのデータ・ソース・アプリケーションを使用します。「スタート」>「ファイル名を指定して実行」の順にクリックして、次のように入力します。

```
%WINDIR%\SysWOW64\odbcad32.exe
```

4. 「ODBC データ・ソース・アドミニストレーター」ダイアログ・ボックスで、「システム DSN」タブを選択し、「追加」をクリックします。
5. 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスのメニューで、データ・ソース・ドライバを選択して、「完了」をクリックします。
6. 「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスで、ドライバ・タイプに関する画面上の指示に従って入力します。必要なフィールドはデータ・ソース・タイプごとになります。システム管理者がサーバーで使用する同じ命名規則を使ってください。

データ・ソース名はサーバーとクライアント・システムの両方で同じでなければなりません。

7. すべてのダイアログ・ボックスが閉じるまで「OK」をクリックします。

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr
Ottawa, ON K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

用語集

この用語集には、[製品名] の用語および定義が説明されています。

この用語集では、次の相互参照を使用します。

- 「を参照」は、ある用語から推奨同義語へ、または頭字語や省略語から完全形式の定義への参照です。
- 「も参照」は、関連する用語や対比する用語への参照です。

他の IBM 製品の用語集を見るには、www.ibm.com/software/globalization/terminology を参照してください。

『ア』 『カ』 『サ』 『タ』 32 ページの『ハ』
32 ページの『マ』 32 ページの『ラ』 32 ページの『D』 32 ページの『R』

ア

インスプレッド (inspread)

テーブルのヘッダー領域。インスプレッド・ディメンションはテーブルを構成し、選択に複数のメンバーを含めることができます。

オフスプレッド (offspread)

テーブルまたはグラフ外の領域。オフスプレッドには、直接、テーブルやグラフの一部ではないディメンションが含まれています。これらディメンションは 1 つのメンバーに固定されていて、表示する必要があるデータの部分を指定します。

カ

行/列計算 (row column calculation)

絶対メンバーではなく相対メンバーで動作する計算。R/C 計算では、メンバーの名前ではなく、行や列のディメンション選択の場所に基づいてメンバーが含まれます。

項目 (item)

リポジトリーに保存されているデータ要素。項目には、フォルダー、ビュー、デー

タベース、データ・ソース、画像、またはショートカットがあります。

サ

信号機 (traffic light)

セルや形状の値に基づいてユーザーがセルや形状に色を適用できる機能。

タ

対称選択 (symmetric selection)

積み上げディメンションで、行または列のメンバーが各グループで同じになる選択。

積み上げディメンション (stacked dimension)

テーブル内のディメンションの上にある 1 つ、または複数のディメンション。行や列に積み上げることができます。

データ入力 (data entry)

データベースを操作して OLAP データベースに保存されているデータを追加または変更することができます。

「ディメンション」ダイアログ (dimensions dialog) オフスプレッドおよび印刷範囲ディメンションの両方で、ユーザーが順番や選択を変更できるダイアログ。ディメンションは、表示、非表示、または無視することができます。

ディメンション (dimension)

製品、日付、場所など、ビジネスの主要な面に関する記述データのおおまかなグループ分け。各ディメンションには、1 つ以上の階層の異なるレベルのメンバー、計算されるメンバーのオプション、または特殊カテゴリが含まれている場合があります。

ドリルスルー (drill through)

レポート、キューブ、またはマクロのデータにリンクされている詳細な情報を表示することです。例えば、特定の顧客の販売取引情報を表示するために値をドリルスルーすることができます。元のオブジェクトの情報フィルターが自動的に適用されます。

ドリルダウン (drill down)

データのマルチディメンションの表現で、一般的なカテゴリーから開始して、その情報階層を下方向へ (例えば、年 > 四半期 > 月のように) 移動して情報にアクセスすることです。

ハ

非対称選択 (asymmetric selection)

積み上げディメンションで、行または列のメンバーを、グループ毎に異なるようにできる選択。非対称選択は手動で行うか、ソート、または消失値の削除の結果、発生します。

ビュー テーブルやグラフ内の領域で、列、行、オフスプレッド領域、およびオプションでドリルスルー・ウィンドウが含まれています。OLAP データベースに保存されたデータを表示します。

プロバイダー (provider)

カタログ、セキュリティ、およびログ機能を Executive Viewer に提供するプログラム。

ポートレット (portlet)

再使用可能なコンポーネントで、ポータル コンテキストに表示される特定の情報やサービスを提供する Web アプリケーションの一部です。

ホバー・ドリル・ボタン (hover drill button)

メンバーに関するドリルダウン機能を容易にするボタン。ホバー・ドリル・ボタンの表示は固定するか、メンバーにマウス・ポインターが置かれた場合にのみ表示するかのどちらかにできます。ホバー・ドリル・ボタンは表示しないようにすることもできます。

マ

メンバー (member)

ディメンション構造内のノード。

モデル定義 (model definition)

リレーショナル・データを分析するための入力として使用されるデータ。モデル定義は OLAP データベースの基本を形成し、

リレーショナル・データベースのテーブルと関係から作成されるディメンションを含みます。

ラ

リポジトリ (repository)

データおよびその他アプリケーション・リソースの固定記憶領域。

D

DynaSelect

使用頻度が高いアクションの記録を作成するユーザー機能。特定のビュー上で開いたり印刷したりするといったアクションを記録する際に使用されます。

R

R/C 計算 (R/C calculation)

「行/列計算 (row column calculation)」を参照。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アドバイザリー 6
ウィンドウ 8

[カ行]

関係
削除 16
定義 15
ドラッグ・アンド・ドロップ 16
プロパティ 17
キューブ
作成 9
分析 10
言語 6

[サ行]

システム概要 1
システム要件 2
集約 19
製品の説明 v
接続 6

[タ行]

ツールバー 8
データを選択する 14
スキーマ 14
テーブル 14
フィールド 14
テーブル名 17
ディメンション 17
値 17
削除 21
作成 18
時間 19
時刻 17
自動上下 19
ドラッグ・アンド・ドロップ 20
フィルター 19
ドキュメントの対象読者 v
ドキュメントの目的 v

[ハ行]

フィールド間の関係 15
フィールド名 17
プレビュー 21
分析
Express Advisor のインストール 21
Query Studio 21

[マ行]

モデル
作成 11
使用 11
モデル定義
クライアント・ベース 11, 12
サーバー・ベース 11, 12
作成 11, 12
使用 13
データ・ソース 11, 12
場所 6
パッケージ 11, 12
開く 13
プロパティ 11, 12
保存 13
リレーショナル 11

[ヤ行]

ユーザー・インターフェース 7
用語集 31

[ラ行]

レベル 20

[ワ行]

ワークフロー 9

D

Data Advisor
インストール 4
開始 5
構成 5
ご利用の手引き 3
使用 5
フロー・プロセス 4

O

ODBC 設定 3

ODBC データ・ソース

クライアントの設定 23, 25

ODBC データ・ソース (続き)

サーバーの設定 24